

2023年度 事業報告

社会福祉法人かわち野福社会

第188回 理事会

現在、国外では、ロシアのウクライナ侵攻、ガザ侵攻、台湾や情報技術をめぐる米中間の緊張の高まり、国内では、防衛費の急増、反撃（敵基地攻撃）能力の整備など、戦争の匂いがこの国の内外に満ちてきています。理念である“ぬくもり”と“たすけあい”で高齢者や子ども、障害を持つ人が大切にされる町づくりを進めていくため考えられる行動、声を上げていくよう努めました。

法人全体の（資金収支計算書）事業活動収入は9億9270万円で前年より1億1784万円増えていますが、長きにわたってご利用いただいていた利用者A様より多額の寄付が含まれています。A様は在宅におられケアプランからのかかわりで、サ高住加納に入居、特養開設後には特養に入居され、職員の信頼、心の拠り所にされていて感謝の気持ちをと頂いています。

人員不足が常態化し、離職があるとシフトが回らなくなる状況ができます。今年度入職者よりも退職者が多く、離職率は跳ね上がりました。職員から紹介による報奨金、紹介会社へ手数料も増えています。働き続けられる職場づくりを心掛け、MBO(目標管理)など職場のコミュニケーションを重視した取り組みを進めています。

水光熱費は事業費・事務費合わせて昨年度比80%に下回りました。前年度は141%UPでしたので改善が見られます。また、物価高騰により給食費は前年度比108.5%と上がり、配食・厨房で業務改善を進めましたが大きく欠損を出してしまいました。配食サービスではやむを得ず2024年5月より約40円/食の値上げを予定しています。

学習委員会では、研修計画立案、研修内容を作成し、ClipLine(多拠点ビジネス特化型ダッシュボード等)を用いて研修を進めました。ハラスメント学習会の中でも「カスタマーハラスメント」については感想文の提出、BCPについては計画の作成、研修後の継続対策、常備物品をそろえるなど進めています。

社保委員会では学習会や署名活動を行いました。能登沖地震の救援義援金は、2月7日に民医連に75,215円送金し、その後福祉経営全国会議を通じて151,260円を送金しました。

後援会活動はコロナ禍で委員会の開催が滞った状態でしたが、季節毎の物品販売では100件前後の協力があり利益合計382,539円をかわち野福社会へ寄付としました。